



第四回 職場 アトリエ訪問

山本美次さん

昭和45年(1970)学油

校友会、校友会員の活動記録
近況ひとこと

2024年度 校友会広島支部総会

2024 年度会計報告

ひとくち講話

チェコ 絵本作りの旅

塩山要子さん

昭和38年(1963)校本洋

校友会広島支部
ホームページ



<https://musabi-hiroshima.icurus.jp>

第四回 職場

アトリエ訪問

校友の活動を紹介するコーナーです。

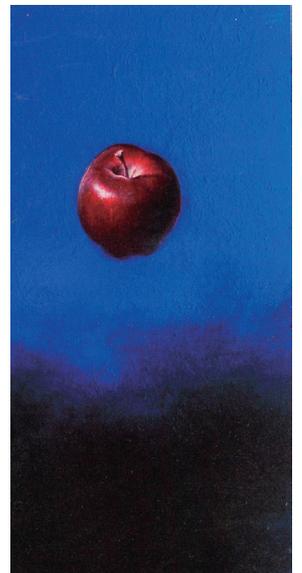
山本美次さん

昭和45年(1970) 学油



山本美次(1949年広島県廿日市市生まれ)は、幼少期に家族を亡くし絵画に没頭。武蔵野美術大学で油絵を学び、1972年に渡仏。エコール・ド・ルーヴルやパリ国立高等美術学校で古典技法や銅版画を研鑽し、帰国後は広島を拠点に個展・グループ展を重ね、ヨーロッパでの模写研修も続けつつ独自の画境を深めた。

※ EXP. YAMAMOTO MITUGI 45.5 x 91.0



岡崎 幼少期のお話を聞かせてください。

生まれたのは昭和二十四年。戦争が終わって四年ですね。実の父は小学校二年生の時に亡くなったんです。復員してからずっと調子が悪いままで、鉄道病院で亡くなったんです。父が入院している間、妹と一緒に伯父の家に預けられました。父の死後、三年生の時にお袋の実家に帰ってきました。今住んでいるこの家です。

岡崎 昔から絵は好きだったんですか。

宮島での写生大会があって、毎年賞状をもらっていて、母が大切にとつてくれていたから絵は好きだったんです。でも、本当に好きになったのは中学に入って、吉野先生と出会ってからです。実は五年生の時の健康診断で、お医者さんから心臓弁膜症だと言われ、それから病院通いが始まり、検査とかあちこち連れ



て行かれ、体操とか全部禁止されたんです。とにかく安静にして過ごしてくださいと言われてました。その上、母がどこかのお医者さんから「二十歳くらいまでしか生きられないだろう」と言われたようで、影で泣いていました。日赤病院の屋上からポーと街を眺めた記憶があります。母が爆心地から一キロ圏内で被爆しているの、原爆の影響かとも思いました。そのせいか、授業を聞いていても全然頭

に入らなくて、毎日窓の外ばかり眺めていました。そうしていると悪い友だちが寄ってくるんです。悪童というよりも不良少年たちで、おまわりさんに補導された時に、裸電球が吊されている鉄格子のある留置場を見せられて、「今度悪さしたらここに入れてやる」って脅されました。

それが変わったのは、中学で美術クラブに入ってからです。顧問の吉野先生との出会いがきっかけです。美術クラブが楽しくて、悪い友だちと自然に付き合いがなくなりました。

岡本 吉野先生は神様みたいな人ですね。

そう、母がとても感謝していました。

私の心臓の病気が見つかった十歳の頃、母が山本の父と再婚しました。後になって気付くような自分ですが、山本の父は余命を言われている自分をその頃から理解し、心から支えてくれました。

後年知ったことですが、僕が武蔵美への進学を思い始めた頃、父は吉野先生にも相談に行き、「息子がやりたいことをやらせたい」と親戚を説得してくれたそうです。不運にも六十年代で事故のため早世しましたが、いつも家族中で心配しながら静かに見守ってくれていました。妻との出会いも山本の父の紹介でし



二十歳までは生きられないと こっそりお医者さんが母に告げました

たし、自分が日本古武道を学び始めたきっかけも父の影響からです。この師・梅本先生から生涯にわたり多くのことを学ばせていただきました。合気道の植芝盛平氏がヨーロッパでブームになっていた時期がありまして、スペインの友人の日本文化学校へ師を招き、居合を伝えていただきたいと思っていました。が、実現できなかったことをとても残念に思っています。

吉野先生は美術教師で、武蔵美を卒業して先生になったばかりでした。学校のすぐ裏の教員住宅に住んでいて、絵も熱心に教えるだけじゃなくて、京都にミロのビーナスやエジプト展を見に行ったり、いろいろな展覧会等に連れて行ってくれます。中二になると僕は部長を任せられました。国泰寺中学で行われた中学校美術教育の全国大会で公開授業に駆り出されたり、県庁で美術クラブの展覧会をやったりして、新聞にも大きく取り上げられて部員がどんどん増えていきました。部活の中で吉野

先生が武蔵美の話をたくさんしてくれるんですが、お金がなくて屋根裏に住んだとか、先生が言われた言葉は僕の中にたくさんインプットされているんです。「自分が描いた絵を簡単に人にあげちゃいけないよ。タダでもらった絵は大切にしてみらえない」とか。僕は今でもその言葉を守っています。後年先生にそのことを話したら、「そんなこと言ったかな」と(笑)。

岡本皆さん、たくさん「アルミでつくった鳩」をもらってますよね(笑)。



左から吉野 誠先生、柏木活志先生、山本美次さん

中学卒業後に進んだ山陽高校は美術部がなくて、僕たちが美術部をつくったんです。吉野先生の影響が大きく、美大に入るなら武蔵美に行きたいって思っていました。

岡本 学科は油絵と決めていま

したか。

吉野先生とみんなで立体彫塑をいろいろ制作していて、その展覧会なんかもやってたんです。それで受験は彫刻で臨みました。でも、彫刻やる人って体つきとか迫力とかすごいでしょ。僕は二十歳くらいまで生きられない宣言をされていて、まわりの受験生に画力・学力以前に氣迫で負けた感じで落ちました(笑)。

それで、短大ならまだ受験に間に合うということで、無事短大の油に合格することができました。当時は団塊の世代、七〇年安保の時代で、僕も何も知らないまま学生運動の影響を受け、学校をみんなで占拠したんです。ロックアウトですね。短大は女の子ばかりでしたけど、みんな何日か学内に閉じこもったんです。

当時、東大の安田講堂には若手の先鋭第四機動隊が配備されたんですが、武蔵美には立川の第六機動隊が配備され、こちらの方はおじさんたちが中心の隊だったんです。校門のところで、女の子とスクラムを組んで「帰れー帰れー」って叫んでたんですが、ついに突入って時がきて、

釜ヶ崎の飯場で案外楽しくバイトに励みました。

みんなで離れないように構えてたんですけど、護身術のようなものだと思うんですが、機動隊の人が指先でちよつと触れるだけであつという間にみんなぼらけちゃつて、すぐに解散させられてしまいました。学生の中には逆にロックアウト破りもいて、アトリエでモデルさんを一生懸命描いてるんです。それで、「おれは一体何をやってるんだろう」って気持ちになつて目が覚めました。

短大二年の真ん中くらいに四



年制への編入試験があり、数名が受かった後、どの先生の教室

に入るかということになつて、あみだで決めることになりました。麻生三郎という人気の先生がおられて、無事に麻生先生の教室に入ることができたのですが、僕を含め全員が麻生先生のところに入りたかったです。それで、あみだを描いている筆を目で追つて頭の中にたたき込み、普段では考えられないくらいの集中力で、あみだの線が頭の中で完全に見えました。

先生は当時、三軒茶屋のリンゴの木箱を積んだような家に住まれていましたが、先生のアトリエはすごい。作品のモチーフが獣道みたいに散らばつていて、ストロブのまわりに仲間作品を持ち寄つて、みんなでいろんな話をするんです。

四年になつてしばらくした時に、ふと思ひました。今は先生が作品を見てくれて、友だちや仲間がいて楽しくやつていて、自分ひとりになつた時にどうなるんだろうかと。

先生の作品はすごい。戦争の中を生きてきてるわけですからね。みんな憧れてる。本当に素



晴らしいんです。でも、僕は先生の作品をつくるわけじゃなくて、自分の作品をつくる。先生は作品をつくるのに自分の体をカンナで削るように描いてると仰つてたんです。それくらい覚悟がすごくて、僕には無理だし、そんなの嫌だつて思いましたよ(笑)。

その頃僕は、作品づくりのため



いろいろな先生や先輩、場所を訪れていたんです。

あつちこつち、どこにでも行きましたね。桜田門の警視庁、なぜか入れてくれて。

岡本 何をしに警視庁に行かれたんですか。よく入れてくれましたね。

まだ学生運動が盛んになる前だったから入れてくれたんでしょね。

あの頃はベトナム戦争があつたから、人間の生死観を通して何か画のモチーフになればと探つていたんです。捜査一課に連れて行かれて、

「こいつ一体何をしに来たんだ」とまわりの刑事さんから不思議な目で見られたりしたんですが、「死を描こうと思う」と言つたら、面白がられて資料や写真なんかも見せてくれました。僕は何も知らない、何も分からぬ。模索状態です。何を描けばいいのか、どうすればいいのか、それを四年間続けてしまつたんですけど、このままだけ卒業後は路頭に迷うだろうし、それ以前に破綻するんじゃないかと、大きく不安が増しました。

岡本 お母さんは心配されてたんじゃないですか。生活費はどのようにまかなわれていましたか。

学費と生活費は家族が出してくれましたが、留学のために、四年からバイトをしていました。東京駅地下、総武線の工事です。地下三〇メートルだから気圧を上げ、中に入るときに一気に気圧を変えるから、耳から血が出てくる人もいます。東北の人や九州の出稼ぎの人たちと一

緒です。足場も悪いから、慣れない人が高いところから次々落ちていくんです。給料は当時のお金で一晚一万から一万二千元ぐらい。悪くなかったです。危険だし、人手も足りない。それで、給料がもっと良い仕事の話が入ってくるんです。

その頃、地方で働かないかという誘いがあった、友だちを誘って一緒に行つたんです。流れ流れて堺まで、まわりが鉄条網で囲まれた宿舎で、そこからバスで現場に向かうんです。釜ヶ崎の仕事でした。街の中で人が寝てるのかと思つたら、そのまま死んでいたりして。ある日、友だちが一斗缶を運んでいる姿を見たら、体が変なかたちにゆがんでる。親方に腰が痛いから仕事をやめさせてくれって言うても聞いてくれない。何度もねばって、交換条件として代わりの人足を連れてきたら辞めさせてやるって言われたんです。それで、大阪芸大の前で「給料のいいバイトがあるよ」って勧誘して、代わりのバイトを連れてきて、ようやく友だちの解放に成功しました。周りからは「山本は皆と、飲む、打つ、買うに行かないし、何が楽しくて生きてるんだ」と言われましたが、



そのまま最後まで続けました。いろいろありましたが、案外楽しかったです。

岡崎 二〇歳まで生きられないんじゃないですか。

従姉妹が広大の医学部に来てたお医者さんと結婚して、その先生が枚方の松下病院の先生になったんです。学会でパリに来られた時に心臓病のことを話したら、病院に最先端の検査機器があるって言われて、1975年に一時帰国した時に診てもらったんです。そうしたら心臓の壁に穴があるのは確かだけど、すぐ生死にかかわるような状態じゃない。「結婚して子どもも持てるよ」と言われ

て、頭の上がスコールと抜けました。岡本 留学は自費ですか。

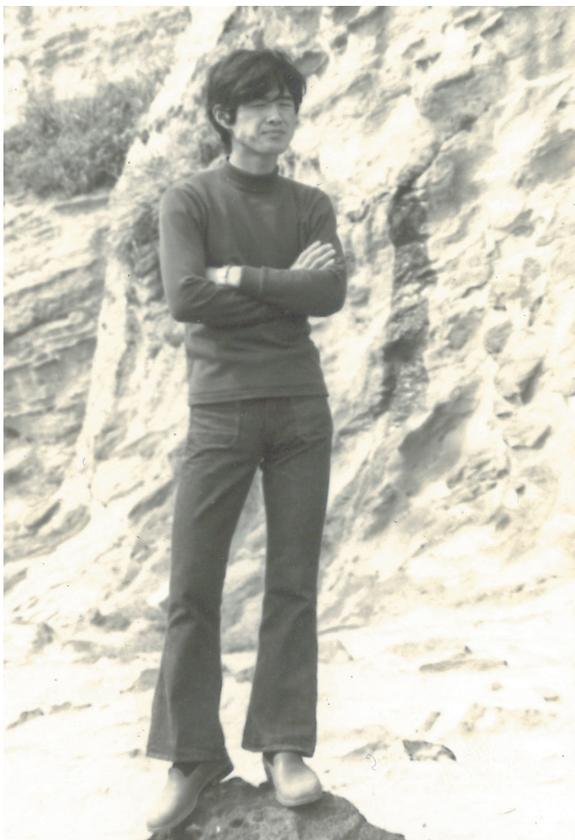
全額自費です。奨学金制度とかあったかどうかも分からないし、自分には無縁だと思つていましたから。

岡崎 フランスでもバイトをさせていましたか。

それはいいです。

描くことのみの日です。渡仏は一番安い山下新日本汽船というソ連船で横浜からナホトカ港に到着。ところが、列車でモスクワからフランスにたどり着く前にワルシャワで迷子になってしまったんです。北欧の三月。あの頃のワルシャワは戦後の瓦礫の山で、駅もない感じ。みんなが汽車を降りて見に行くから、それに誘われて降りて行つたんです。しばらくぶらぶらして戻ってみると、四号車からは停まってるんですが、自分が乗ってたはずの二から三号車の姿がない。二人の荷物を乗せたままどこかに消えてしまつたんです。汽車の

窓から知らない日本人が『五カ国語ガイド』を投げてくれて、それを持って駅の事務所に行き、身振り手振りで説明したんです。荷物はもう戻つてこない、ワルシャワの街にある四か所の操車場を教えてくれました。寒い冬空の下で両替の列に友だちと並び、真つ暗な中タクシーで操車場に着きました。ものすごく広大な操車場です。この中からどうやって荷物を見つかるんだって途方にくれたんですが、しばらく歩いてると自分の荷物が客車の窓からぞいでるのが見えたんです！ 本当に幸運でした。その晩は操車場の宿舎に泊めてもらつて、「おまえはアメリカ人か？ 怪しい





やつだ」とか言われながら、お土産に持っていた中国醸造のお酒を飲み交わしました。

どこに行くんだって言われ、ウィーン経由のパリの寝台車の券を買ったから、ウィーンだつて言う、「それなら明日の便がある」つて言われて、本当は一等車の寝台列車でパリに行く予定が、丸二日間鈍行列車に乗るはめに……でも車窓のアルプスの景色は最高でしたね。いろいろな人に助けられな

がらパリになんとか到着しました。

パリでは郊外に住んでいる日本人宅の屋根裏部屋を借りました。冬のパリはすごく寒くて、のみの市で寝袋と毛布を調達し、ブタンガスで寒さをしのぎながらルーブルに通いました。

岡崎 学校はどちらへ。

パリに行けば何とかなるって思つて、何も考えずに準備もなくひとまずパリに行ったん

です。(二同笑)

ルーブルではミレーの「農夫」を模写をはじめました。当時ミレーは日本では人気があつたけれど、ルーブルでは三階の人があまり来ないようなところに飾つ



てあつたんです。模写はやつてもやつても終わりがなくて、出口が見えない。偶然を待ち続けている。僕の近くでミレーの「晩鐘」を模写している日本人がいて、その方が日本での模写の重鎮・高田力蔵先生でした。

高田先生は藝大で寺田春弑氏と油絵の具の組成や西洋絵画技法の教室を立ち上げられていた方でした。美術館のギャルディアンが「ムッシュ高田、日本の青年がミレーの前で七転八倒してるから見てやって」と言ってくれたんです。それから高田先生から、ルーブルでの作品の模写を通して伝統的な絵画技法を教わり始めました。その後、高田先生が「フランスは学生になつた方が絵の勉強には有利だ」と言われ、パリ高等国立美術学校に入学することができたんです。学生になるといろいろなアトリエに自由に出入りできるんですが、僕は古典技法、銅版画、デッサンのアトリエで勉強していました。でも、だんだん気がついてくるわけなんです。何だかんだといつても、油絵の本質はこの地で育つたもの。油絵は彼らにとつて血なんです。どんなにうまく真似ても、日本人の自分とは

なわない。色の見え方ひとつでも、日本人の僕と彼らの感じ方は随分違う。空間の捉え方も意識も違う。彼らと同じようなことをやっていたら、数年で追い抜かれていくとわかったんです。油絵に向かう自分の方向性に気づきました。

他にはエツチング教室に行つてたんですけど、ものすごく贅沢な教室でモデルさんが使っていたので、放題だつたんです。モデルの中に、ダンスやパントマイムを勉強しにパリに来ていた青年がいました。彼はロシア人で僕と同じような歳。彼がポーズをとるとすごく自分と決まるんです。興奮するんです。僕が筆をとると、「描け、続ける」つて僕のためだけにポーズをとつてくれるんです。今の僕の作品に道化が多いのは彼の影響が大いにあります。お互いフランス語がで



眼 1978 布 テンペラ 油彩



岩窟のマリア 模写はつかいち美術ギャラリー

きない時でしたから、名前も聞かないままで残念に思います。

岡崎 奥様との出会いについて聞いてもいいですか。

結婚はできると思ってもなかったし、する気もなかったんです。1978年の終わり日本に帰ってきたときに、しばらく仕事をやる場所がなくて、山本の父が小さな電気工事の会社をやっている、僕はその二階で絵を描いていたんです。その近くに彼女のお母さんがカフェレストランを開いていて、短大を出た彼女が手伝いをしてたんです。父と昼ご飯を食べに行ったりしているうちに好意を持つようになりました。直子夫人彼がダ・ヴィンチの模写を持って帰っていて、その絵が素晴らしかったん

です。私は特別に絵に興味を持つようなタイプじゃなかったんですけど、その絵に魅了されたんです。それに彼はすごく自然体の人で、人前でもつけることも

なくて謙虚な性格でしたので、そこに惹かれました。

絵描きさんと結婚してどうやって食べていくのって、みんなから反対されましたね。父も大反対でした。私は楽天的であまり気にしませんでした。その後のそごうの個展も成功して、それならまあ父も「結婚を許そう」ということになりました。結婚してからヨーロッパの知り合いが部屋を使っていた



と言ってくれて、ふたりで一年ちよつと滞在しましたが、その期間、僕がやりたいこと、憧れていることを彼女に見せて歩いたんです。若いからものすごく大変な旅になってしまつて、帰国する日に空港で倒れてしまったんです。気がついたら警察の車で病院に運ばれ、二人が乗るはずだった飛行機が離陸しているのが見えて、「ああ、彼女は先に

帰っちゃったんだ」と思った。でも、それは僕の思い過ごしで、彼女はフランス語もあまりしゃべれないのに大家さんに「もう少し泊めてくれ」と交渉したり、帰国の段取りをひとりですてくれたりと、ものすごく頼りになりました。

帰国後も日本とヨーロッパを何度も行き来しました。1982年に市川に

家を借りて、十五年くらい住んでいました。最初の頃はホコリひとつないような、アトリエと外界を遮断するようなものすごくストイックな制作でしたが、子どもが一歳のとき、制作途中の絵にいたずら描きをしたのをきっかけに、何かが吹っ切れて、家族や周囲の人たちとの関わりの中での創作活動に変わっていきました。うちの子どもが小学校一年のときに、お父さんの仕事という授業で「うちのお父さんは毎日お絵かきして、お昼ご飯の後はお昼寝して、時々銀座にお仕事に行きます」と話したらしくて。(笑)

たと思います。去年、泉美術館で自分を振り返る展覧会を行っていたんです。その展のなかではじめて自分を振り返り、自分がここまで来れたのは素晴らしい方との出会い、助けがあったからだって。前へ前への毎日で五十年やってきて、ただで住まわせてもらったり、泊めてもらったり。毎年どこかで個展をやらせてもらってきましたが、そのたびにいろいろな方と知り合つて、そのつながりが拡がって。僕はいいものばかりを見たいし、知りたい。それが自分にとんどん影響してくる。これからもいろいろな方たちとのつながりを大切にしながら、その巡り合いに感謝しつつ、創作活動を続けていきたいです。(一)



取材 岡崎隆一 (1998) 通短デグラ

グラフィックデザイナー
ゲームメーカー コンパイルを経て福山市の企業
でホームページ、動画、3DCG制作に携わる。

岡本礼子 (1989) 造形学部 油絵

子育てサポート アトリエ REI レイ合同会社代表
アトリエ REI レイこども舎 (保育園) 園長
国際幼児教育学会理事
広島文教大学非常勤講師



「名前を持つことの尊さ」
絵本で伝えるホロコーストの記憶

去年、ちょうどムサビの懇親会と総会があったころ、私はチェコにいました。目的は絵本作りのための取材です。今日はその体験を中心に、これまでの活動や自分の経験を振り返りながらお話ししたいと思います。

今回チェコを訪れたのは、第二次世界大戦中のユダヤ人迫害、特に「テレジン」という収容所に関連する取材のためです。1938年から1945年にかけてのヨーロッパでは、多くの悲劇が起きました。その中でも、ユダヤ人がユダヤ人であるというだけで名前を奪われ、番書で呼ばれるようになったことは、人間の尊厳とは何

かを深く考えさせられる出来事でした。私は以前、アウシュビッツも見学したことがあります。テレジンは別の意味で特別な収容所でした。この町で暮らしていた子どもたちや大人たちの生活、芸術



まで許されていた特殊な場所です。つまり、表向きは「平穏で文化的な生活」があったかのようにな装われていましたが、実際は過酷な状況が常に隠されていたのです。私はこのギャップを絵本にど



子どもたちの絵と名前の重み
私の絵本作りは、ただ歴史を描くことではなく、そこに暮らした子どもたちの視点や感情を表現することを意識しました。野村

ひとくち講話

チェコ絵本作りの旅

塩山要子さん

昭和38年(1963) 校本洋



武威美卒業後洋裁学校で作図、洋服作りを楽しみ教師として働く。結婚後40才の時に「生活に根ざした絵画教室」を目標に30年間子どもたちとの交流を楽しんだ。一昨年テレジンに長く関わっておられる野村路子先生に出会い「戦争は嫌」と言う思いで目下絵本作りに挑戦中。

活動を知ることが、絵本作りにとって非常に重要でした。

現地で見えたもの、感じたもの
— スケッチと取材の記録

今回の取材は、単に現地の建物や風景を見て回るだけではなく、そこに暮らしていた人々の生活や心情に想いを馳せることでした。テレジンは「アウシュビッツの控室」とも呼ばれ、ナチスによるプロパガンダの一環としてユダヤ人の自治や文化活動が制限付

う表現するかを考えながら現地を歩きました。

テレジンの町自体は小さく、城壁に囲まれた要塞都市です。小要塞と大要塞があり、小要塞の方は当時のまま保存され、現在は博物館になっています。私はテレジンの町に宿をとるのを避け、近くのリトメリーチエという町に滞在しました。川を隔ててテレジンを眺めながら歩き、少しずつ町に近づき、スケッチブックに風景や建物を描いていきました。息子も一緒でしたが、彼は「明日からあの悲惨な町に行きたくない」と言うので、私は一人で町を歩き、写真を撮り、スケッチをしました。言葉は通じず、コミュニケーションは難しかったですが、それもまた取材の一部として重要な体験でした。



小要塞の中には、第2次世界大戦中に収容されたユダヤ人の遺構が残っています。小要塞に至る道の前の広場にはユダヤ人であることを示すダビデの星、そして十字架の下に無数の墓がありました。大要塞では当時の住民は追い出され、収容者たちは身の回りのほとんどを奪われ、生活は厳しく、自由は制限されていました。にもかかわらず、彼らは限られた条件の中で、絵画や音楽などの文化活動を続け、秘密裏に創作を行っていました。私はその痕跡をたどりながら、現地で見たものを写真におさめました。

路子先生という作家の方が、テレジンでの出来事を詳細に取材して著作にしておられます。野村先生との出会いがきっかけで、私は絵本という形でテレジンでの出来事を表現してみたいと思いました。

絵本の主人公は、私がリトメリーチェの町を歩く中で見かけた、鎖につながれた女の子の像からインスピレーションを得たものです。等身大より少し大きいその像は、何を意味するのが正確には分かりませんが、当時の子どもたちの状況を象徴していると感じました。



また、ユダヤ人は名前を奪われ、番号で呼ばれるという状況も、主人公の物語に反映させました。「私には名前がある」というタイトルは、まさにこのアイデンティティの喪失と尊厳の回復を象徴しています。

テレジンには、子どもたちの描いた絵が四千点以上残っています。秘密裏に描かれたこれらの作品は、戦後によく公開され、展示されるようになりました。私はその作品を参考に、絵本の中に取り入れ、縮小コピーして使用することにしました。また、テレジンからアウシュビッツへと運ばれる人々の列車や、三段ベッドに押し込められた生活の描写など、具体的な過酷な状況も資料をもとに描写しました。

さらに、テレジンではフリードリッヒ先生という絵描きの女性が、秘密裏に子どもたちに絵を教え続けていました。彼女は亡命のチャンスもあったにもかかわらず、子どもたちの教育に献身しました。彼女の行動や、子どもたちが描いたカラージュ作品なども絵本の要素として取り入れています。子どもたちは限られた素材を工夫して創



作を行い、その姿は希望や人間の尊厳を象徴しています。

絵本に込めた思いとこれから
絵本制作の過程で最も重要なのは、悲惨さだけを描かないことでした。あまりにリアルに描きすぎると、子どもたちや読者に重すぎる印象を与えてしまったため、私は多少デフォルメし、希望や人間の尊厳を感じられる表現にしました。主人公の女の子やフリードリッヒ先生の物語は、史実に基づきつつも、絵本として読める形に整える必要がありました。



さらに、私にとってこの旅はこれまでの活動を振り返る機会でもありました。大学を卒業してすぐ、油絵を教えた時のこと、子どもたちと一緒に凧を作ったり、キャンプでのアート活動を行ったこと、イラクやルワンダの子ども

たちと交流したことなどです。これらの経験は、今回の絵本制作における子ども視点の理解や、創造力を引き出す工夫に大いに役立っています。特に子どもたちが自由に表現する環境を整えることの大切さを、テレジンでの取材と重ね合わせながら考えました。

最終的に、私が作った絵本の表紙には、プラハで見たシナゴークの壁に刻まれた名前をデザインとして取り入れました。名前を奪われた人々の存在を、作品を通して記憶に留めたいという思いです。主人公の女の子は、名前を持たない存在として描かれますが、物語の中で自らの存在を取り戻し、希望を持つ姿を象徴させました。

この絵本はまだ出版には至っておらず、試作段階ですが、今後出



版社と相談しながら、さらに内容を練り上げていく予定です。今回の講演では、その制作過程や現地での取材体験、そして過去の活動や子どもたちとの経験を織り交ぜながらお話しさせていただきます。皆さんの意見やアドバイスをいただければ、さらに作品を深めることができると考えています。

テレジンの体験は、私にとって単なる歴史の学習ではなく、人間の尊厳、記憶の重要性、そして創作活動の意味を再確認する機会となりました。過酷な状況の中でも創作を続けた人々の姿は、今を生きる私たちにとっても大切な教訓です。この絵本を通して、子どもたちや多くの人々に、その記憶や思いを伝えることができればと願っています。



テレジンの子どもたちの絵は野村路子先生から頂いたはがきを使用しています。

武蔵野美術大学校友会 広島支部懇親会総会

題字 吉野 誠



広島支部総会・懇親会が開催されました

2025年3月8日(土)、春の気配が感じられる中、2024年度の広島支部総会(懇親会)が広島県立美術館講堂で開催されました。今年の「ひとくち講話」では、昭和38年(1963)卒の塩山要子さんに、絵本制作の創作に込められた思いやエピソードなど、心に残るお話

に皆が聞き入っていました。総会の後は、懇親会を開き、久しぶりの再会を喜び合いながら、にぎやかに語りました。今回は、校友会本部より富重法生さんにもお越しいただき、武蔵美校友会の現状やこれか

らの展望についてお話を伺いました。和やかな雰囲気の中、世代を超えた交流が広がるひとときとなりました。



役員就任のお知らせ

今総会で新役員に岡本礼子さん平成元年(1989)学油の就任が議決されました。

岡本さんは安田女子大学、武蔵美通信を卒業され、2005年に約30年間勤めた保育士を退職。その後フランスで画家・ポール・アンビーユに師事。2008年に保育園「アトリエ REI レイこども舎」を創立、こども達が自由な発想のできる場所づくりに取り組まれています。

二科会(同人)、英国立美術家協会名誉会員、広島文教大学非常勤講師

近況ひとこと

編集作業にあたり語句の修正を行っています。誤字や意味の取違いなどありましたらお許しください。

梶井加代子 平成 2 年 (1990) 通美

毎日がバタバタと過ぎてしまいます。ユックリとコーヒーを飲み本を読む!! そんな日が早く来て欲しいと思う日々です。

今井 諭 昭和 40 年 (1965) 学産芸

校友会で皆さんと会うのを楽しみにしていました。が、当日急用のため欠席させていただきます。

岡崎隆一 平成 10 年 (1998) 短通デグラ

4 年前から完全独学でシルクスクリンに挑戦しているのですが、ネットや書籍で調べ上げても、インクの調合や種類、版の濃度など疑問だらけです。研究を重ねた結果、今年の夏にやっと初心者のスタートラインに立てた気がします。

塩山要子 昭和 38 年 (1963) 校本洋

思いがけない展開で、ひとくち講話を引き受けてしまいました。人生の節目の年かな? と考えています。今までやってきた事をふり振り返りながら、これからの事を考えるチャンスを与えられて感謝しています。

島崎陽子 平成 19 年 (2007) 造油

老骨にむち打つ快感が制作のエネギーになった此の頃です。

平井俊雄 昭和 51 年 (1976) 専商デ

県民ギャラリー利用の抽選方法について気になっていましたが、改善されたのでしょうか? 納得のいく方法にしていきたいものです。利用者側から提案していくことも大事だと思います。皆が納得いく様働きかけていかねばと思います。

塩飽一昭 昭和 36 年 (1961) 校本洋

元気です! 自家用車を返却して不便さを痛感しております。電動自転車で片道 4km のアトリエに通っております。描く事はまだ進行中。幸せな事です。ありがとう。皆様に感謝!!

西岡康雄 昭和 50 年 (1975) 短通美油

人生は春夏秋冬の繰り返しである。寒い日もあれば猛暑日もある。生それでも、生きて行かなければならない。どうか、皆様よろしくお祈りします。

藤村朋弘 昭和 36 年 (1961) 本商デ

2 月 3 日から 3 月 25 日まで那覇に滞在。那覇は最低気温 17℃。帰宅前は 23℃の冷房設定でした。2 月に海で泳いだのは初体験で、来年も行きたいと思います。

前垣佳代 昭和 46 年 (1971) 学産芸

細々と、藍染の作家活動を続けています。校友会活動に協力できずすみません。

山本美次 昭和 45 年 (1970) 学油

最近同窓の先輩、後輩の近況が気になります。

松田美佳 平成 13 年 (2001) 通デグラ

いつも会報等のご送付・連絡ありがとうございます。制作活動も集まりにも参加できませんのでホームページをみて皆様のご活躍を陰ながら応援しています。

河野寿美 昭和 50 年 (1975) 短専芸

いつもお世話いただき、有り難うございます。ニードルレースやボビンレース制作を楽しんでいます

伊藤倫子 昭和 52 年 (1977)

安らかな瀬戸内海を表現したいです。

横田良作 昭和 35 年 (1960) 校本日

104 才まで生きた野見山暁治に良く似ていると言われる。確かににているけど、まだ 88 才。先は遠いけど目指して進みます。

岡本礼子 平成元年 (1989) 学油

久しぶりにムサビ展に参加作家活動続けていられることに感謝です。

三宅一生 平成 28 年 (2016) 通油絵画

今回、広島支部展に初出品しました三宅と申します。校友会活動への参加は初めてで、わからない事ばかりですが、よろしくお祈りします。

川崎一郎 昭和 31 年 (1956) 校本洋

現代美術協会退会、90 過ぎて足元が危うく、50 号キャンバスを持ちある事も難しくなりました。今年の尾道市美術展の出品を最後に制作をやめる事にしました。アトリエも片付け中です。

寺本通生 昭和 45 年 (1970) 学美彫

広島駅と上八丁堀(県立美術館近く)で汁なし担々麵武蔵坊をやっています!

島田青坪 平成 9 年 (1997) 学日

令和 6 年度より娘がムサビのエデに入学親子共々よろしくお祈りいたします。

廣安芳子 昭和 29 年 (1954) 校岡一一

昨年より入院しておりますので、失礼いたします。

江坂俊子 昭和 44 年 (1969) 短デ

元気で過ごしておりますが、眼科・歯科と病院通いしております。

杉田名月 昭和 42 年 (1967) 短デ工

残念ながら所用で総会に参加出来ません。盛会をお祈りします。

林 浩美 昭和 60 年 (1985) 短デ芸

旅行に行っているため総会に参加できません。来年は是非参加したいです。

校友会 広島支部 2024 年度会計報告 24 年 4 月 1 日～25 年 3 月 31 日 (単位/円)

収入		支出	
項目	予算額	項目	予算額
前年度繰越金	467,366	支部展 小品展費	99,000
基本助成金	60,000	24 年度送金分	
新人賞副賞	0	MUSABI 展懇親会	
支部展企画後援費	0	総会懇親会費	
その他	58,500	支部催事費	29,265
支部会費	53,000	会議費	6,600
支部展参加費	10,000	広報物印刷費	48,500
	56,000	Web・ブログ関連	26,450
行事参加費		通信費	0
		総会懇親会	27,485
寄付金	6,500	慶弔・交際費	0
利子収入	59	A&D 関連	
		振込手数料	2,200
収入合計	711,425	支出合計	239,500
備考欄	次年度繰越金 (通帳残高 471,925 円 現金残高 0 円) 合計 471,925 円	次年度繰越金	471,925

校友会 広島支部 2025 年度予算案 25 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日 (単位/円)

収入		支出	
項目	予算額	項目	予算額
前年度繰越金	471,925	支部展 小品展費	44,000
基本助成金	60,000	展覧会会場費	
新人賞副賞	0	MUSABI 展懇親会費	20,000
支部展企画後援費	0	支部催事費	26,600
その他	58,500	総会懇親会費会場費	5,000
支部会費	55,000	事務用品費	
支部展参加費	10,000	会議費	5,000
行事参加費	40,000	広報物印刷費	25,000
		Web・ブログ関連費	10,000
寄付金	5,000	通信費	25,000
利子収入	50	慶弔・交際費	5,000
収入合計	641,975	手数料	2,200
		雑費	2,200
		支出予算合計	170,000
		次年度繰越金	471,975

校友会報の原稿をお寄せください

校友会報の原稿を募集しています。テーマは自由です。原稿には、「お名前、卒業年度、学部・学科等を記入し、写真や作品などの図版を 2～3 枚添付してください。原稿との関連写真には、簡単な説明を添えてください。原則として原稿・写真は返却しませんが、返送を希望される場合はその旨お伝えください。

広島支部ホームページから受付も可能です。

寄付・年会費について

「校友会広島支部では年会費や寄付金による活動維持制度を設けております。会費納入およびご寄付は任意です。未納期間分の支払いをお願いすることはありません。

・振込先 ゆうちょ銀行 五一八支店 普通 1694454

・口座名義 武蔵野美術大学校友会 広島支部

※銀行振込の場合、お名前だけの確認となります。お手数ですが、振込後に事務局まで電話またはメールでご連絡ください。

■**荻井 加代子** 平成2年(1990) 通美

『ASAS展』

2024年12月9日(月)～14日(土)
(銀座ギャラリー向日葵)

『第99回国画会(国展)』

2025年4月30日(水)～5月12日(月)(国立新美術館)

『広島国画グループ展-国展100回記念企画-』

2025年3月11日(火)～3月16日(日)
(広島県立美術館)

『版画4人展』

2025年10月15日(水)～21日(火)
(ギャラリーブラック 広島)

■**島崎陽子** 平成19年(2007) 造油

『いろ色パステル画展』

2024年11月1～3日(シンフォニア岩国)

『スタジオ美の小怪作品展』

2025年4月3～6日(シンフォニア岩国)

広島・山口独立グループ展

2025年5月14～18日

『第3回島崎陽子作品展』

2025年11月19～23日
(京都ギャラリー Create 洛)

■**塩飽一昭** 昭和36年(1961) 校本洋

『未来展』

2025年4.8～15(福山ギャラリーマサノ)

『福山美協展』

2025.8.27～8.31(ふくやま美術館)

『FORTISSMO展』

2025.7.23～27(ふくやま美術館)

■**西岡康雄** 昭和50年(1975) 短通美油

『第44回日現展』

2024年10月17日(木)～10月22日(火)
(大阪市立美術館 天王寺ギャラリー)

『第9回西岡康雄展』

2024年12月10日(火)～12月16日(月)
(周南市文化会館)

■**前垣佳代** 昭和46年(1971) 学産芸

『第63回記念 日本現代工芸美術展』

2025年4月18日(金)～4月24日(木)
(東京都美術館)

『第16回全国阿波藍染織作家協会展』

4/11(木)～4/14(日)(シビックセンター)

■**山本美次** 昭和45年(1970) 学油

『山本美次展』

2024年3月16～6月16日(泉美術館)

『山本美次展』

2025年5月8～21日
(表参道ヒルズ(東京) 同油館 Galerie412)

■**河野寿美** 昭和50年(1975) 短専芸

『冬のおくりもの2025』

2025年11月7-8日/紙屋町スウィング(紙屋町シャレオ地下街の西)。メンバー11人それぞれの個性で制作した作品の展示販売会です。インスタグラムはfuyuno_okurimono、フェースブックは「冬のおくりもの」

■**三宅一生** 平成28年(2016) 通油絵画

『第55回元陽展 広島巡回展』

2025年1月14～19日(広島県立美術館)
同展にて奨励賞受賞

『第48回グループ「集」展』

2025年4月22～27日(広島県立美術館)

『第56回元陽展』

2025年12月4～11日(東京都美術館)

■**川原信子** 昭和40年(1965) 短芸

『四季をうたうー川原信子と教え子たちー』

2025年8月2日(土)～10月5日(日)(泉美術館)

■**岡本礼子** 平成元年(1989) 学油

『岡本礼子作品展』

2024年11月5日～10日(ギャラリー718)

『第109回二科展』

9月3日(水)～9月15日(月・祝)(国立新美術館)

『Reiko Okamoto 2025』2025年12/9～14

『4人展』2025年12/16～28

■**岡崎隆一** 平成10年(1998) 短通デグラ

『JAGDA 広島 ヒロシマ平和ポスター展』

2025年7月18日(金)～24日(木)
(旧日本銀行広島支店)

『第109回二科展』

9月3日(水)～9月15日(月・祝)(国立新美術館)

■**島田青坪** 平成9年(1997) 学日

『親子展』

2024/3.11～3.18(浅津芸術村ギャラリー)

■**遠藤吉生** 昭和51年(1976) 学建

『建築数人会2024展』ー違和感カフェー

2024/11.2～11.10(ギャラリーM)

講演「広島の復興と建築」

2025.3.30(平和記念資料館地下1F)

■**友安一成** 昭和46年(1971) 学美油

『伝え継ぐ幸せ展』

2025/3.10～4.19

(ギャラリーブチフォルム)

『第30回時のかたち展』(招待出品)

2025年5月13日(火)～5月19日(月)
(横浜赤レンガ倉庫1号館2F)

『友安一成油彩展「写生考-III」』

(東広島美術館アートギャラリー)

第50回広島支部 MUSABI 展

2025年3月5日(水)～3月11日(月) (ギャラリーブラック)

- ・岡崎隆一 平成10年(1998) 短通デグラ
- ・伊藤倫子 昭和52年(1977)
- ・鎌田七洋 昭和40年(1965) 校美教養成
- ・三宅一生 平成28年(2016) 通油絵画
- ・河野寿美 昭和50年(1975) 短専芸
- ・塩山要子 昭和38年(1963) 校本洋
- ・島崎陽子 平成19年(2007) 造油
- ・塩飽一昭 昭和36年(1961) 校本洋
- ・西岡康雄 昭和50年(1975) 短通美油
- ・山本美次 昭和45年(1970) 学油



3.5 to 3.11 2025 Gallery BLACK
Naka-ku, Teppo-cho Hiroshima

Mu
sabi展

第50回

会場
ギャラリーブラック
3月5日(水)～11日(月)
10:00～17:00
(前日13:00～最終日16:00迄)
広島県広島市中区鉄砲町4-5
082-211-3322

ムサビ展 武蔵野美術大学校友会広島支部 入場無料

編集後記 岡崎隆一 平成10年(1998) 短通 デグラ

新しく役員になった廿日市在住の岡本礼子さんに道案内をお願いし、校友の山本美次さん宅を訪ねました。大きな神社のすぐ近くにあるお宅は、緑と明るい日差し、清らかな空気に包まれ、とても心地よい空間でした。山本さんご夫妻に温かく迎えていただき、素晴らしい時間を過ごすことができました。この取材は本当に面白く、お話の中で文章にまとめられたのはほんの一握りです。次回は奥様から、山本さんの武勇伝などもぜひお聞きしたいと思います。

また、塩山要子さんには、急なお願ひにもかかわらずひとくち講話を快く引き受けていただきました。ご自身の絵本づくりへの思いを伺い、きっと素晴らしい本になるだろうと確信しました。出版がとても楽しみです。

武蔵野美術大学校友会広島支部会報

MUSABI No.41
2025.12

〒720-0052 広島県福山市東町3-3-16

編集・制作 岡崎隆一 TEL 090-4808-9905 toi@mac.com